

第1回新県立中央図書館DX検討に関する有識者会議 主な意見

項目	主な意見	対応
DX定義	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館DXの対象は、県民だけでなく県職員も対象 ・全てがデジタルであることが常にハッピーをもたらすものではない ・ユーザーの体験、ユーザーエクスペリエンスの向上が重要 ・ユーザーサイドから、最もその時々合理性が高く、決定権が与えられるような情報への接し方ができることが肝要 ・ユーザーが主語であって、知識や情報の基盤、コモンズとしての図書館はどうあることがより望ましいのかという観点 ・データ駆動型サービスの創出を容易にするような、図書館の組織文化の変革 (①図書館内の働き方改革、②デジタル化(既存ワークフローやサービスのオンライン化、新たな創出など)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体のDXの流れ(他分野・海外含む)を押さえ、その中での図書館DXを検討 ・DXの対象を「県民」及び「職員」とする ・対象者が主体的に体験・選択できる合理的で効果的なサービス ・しくみだけでなく優れたコミュニケーションデザインが必要 ・BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリング)とセットにサービスの向上
DX取組	<ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型サービスを実現可能とする基盤としての未来の図書館。 (①マルチモーダルでの問合せ応答システム、②エビデンスベースの政策立案システム) ・地域資料をアーカイブする機能も重要 ・地域資料を作る市民活動を図書館が支援 ・ネットで何でも検索できる時代、県独自の地域コンテンツを充実させていく ・新しい技術が欲しい等、課題解決をするような場というようなどころとしての図書館、そういう人たちの交流の場 ・その人の趣味嗜好に合った検索(パーソナライズ)ができること ・ソーシャルリーディング的なものが今後の若い層に普及していく、読書の一つの形がそこにあるのではないか(共読) ・オーディオブックが日本でも今後普及する可能性 ・ユーザーのモニタリングが重要 ・駐車場が大きく、車番認証技術などで車の年式型式まで取れるので、年収や家族構成等が分析できる ・図書館アプリとカーナビ等をSDL連携して、車の走行状況等と連携したコンテンツをナビに転送して中継するなど ・本の内容をフリーテキストサーチし、本を部分的に解体して自分用の本を作るような、既存の「本」という境界を溶かす、必要な部分だけ抽出する仕組み。新しい読書の形 ・本はもう国会図書館に一つデータあればいいということになれば、静岡県で固有でどうするという部分ではなくなるのでは ・デジタル情報が中央に収斂していく中で、郷土資料、あるいは行政の情報とか地域情報とか、県立図書館の役割を考える 	<ul style="list-style-type: none"> オープンデータ、ビッグデータの活用・収集 ・オンリーワンの地域資料が重要 ・現在、県内地域資料は原則収集方針、書誌データは作成・公開しているが、やりきれていないため、データも含めて一層強化 ・専門書、レファレンス、レファレルサービス等既存のサービスだけでなく、交流の場を設置、創出。 ・パーソナライズの強化とサービスの選択制をセットに推進 ・オンラインとリアルを交えて交流や発信を促進する場の提供・創出 ・今後の動向に注視 ・駐車場管理は現管理者のグランシップ(文化振興財団)が継続する計画になっている。 ・一次短期利用や防犯上もモニタリングはサービス向上に有効なので、可能な範囲で導入 ・著作権がクリアされた資料についての全文データ化の推進 ・出典付き分離・抽出等のしくみづくり ・国立国会図書館にない地域資料等の資料が大事 ・国立国会図書館等国レベルのサービスやシステムの動向に注視し、有効に活用する
DX会議今後の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度提言を提出した後も何らかの形でメンバーの一部が図書館のDX推進に関与する方がいい ・建築というスピードと、情報の方のスピードの折り合いをどう付けるか(建築を進める間にも情報技術は急激な進歩) ・常に変わり得る可変的なやり方をしていくアジャイルガバナンスが重要 ・情報の公開性や透明性を高めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降もデジタル戦略顧問を中心とした一部委員にアドバイスを依頼 ・委員の許可が得られれば、議事内容を公開対応可 ・一方で本会議の内容は専門性が高いこと及び具体的な事業を決定する場ではないことから、公開することにより透明性があがる効果は限定的と考える。議事そのものは自由な意見を付度無く取り交わしやすいように非公開とするのも効果的ではないか。
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を支える人材採用育成に関しても提言を行うのが望ましい ・DXはボトムアップで解決できるものではなく、強いリーダーシップが必要(館長人事) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定程度の提言は必要 ・ここが提言のひとつの目玉になるかもしれないという認識